

会派視察報告 (2016年8月16日～18日)

日本共産党 野中重男 高岡朱美

8月17日 輪島市「防災組織及び防災士の育成について」

担当課：総務部防災対策課

事業の目的 災害に強いまちづくり 地域防災力強化

きっかけ 2007年3月に発生した能登半島沖地震（マグニチュード6.9）の被害
計測震度の最大地点は輪島市門前町 震度7（石川県では観測史上最大）
死者1名 重傷者46名、軽症者69名
家屋被害 全壊513棟、半壊1,086棟、一部損壊9,988棟
停電 全世帯 断水 5,500世帯

事業内容

災害時に役立つのは ①自助 ②共助 ③公助の順 阪神淡路大震災では、公助で助かった人はわずか数%。 もともと地域の結びつきが強いことを生かし、行政が後押しすることで災害に強い街づくりをすすめてきた。

1、 防災士育成

- 平成22、23年 輪島市単独事業として防災士資格取得を全額補助
平成22年 123名 平成23年 354名が取得
- 平成25年は中学生・高校生にも対象を広げる
平成28年現在 539名（内108名が助成）の防災士が各地区で活躍

2、 自主防災組織の結成促進

- ◆ 区長および防災士を中心とした組織
平成28年現在 144組織 地区充足率70.19%
- ◆ 輪島市自主防災活動事業費補助制度を創設
条件：防災士を有すること 1年以内に災害予防訓練を行ったこと
50世帯未満＝50,000円 50～100世帯＝60,000円
100～200世帯未満＝70,000円 200世帯以上＝80,000円
防災倉庫については別途 費用の4分の3を補助（限度額50万円）
- ◆ 平成24年 初期消火体制整備事業 事業費の3/4（限度額50万円）
自主防災組織による自発的初期消火活動を応援
消火器具置き場の新設、改修
消火用機器整備

活動状況

防災訓練、地域の見回り活動、地域の会合で防災について議題に、防災資機材点検
その他観光客向けの避難誘導看板の設置→英語、中国語、韓国語、日本語の4か国語
で表記津波避難ビルの指定（国・県・民間企業で3階建て以上のもの）停電時でも避

難誘導できるソーラー、風力ハイブリッド式街灯の設置市で食糧を備蓄（水（5 年保障のもの）・ソフトパン・α米・レトルトカレー）

感想

人口 28,426 人で水俣市とほぼ同規模の街だが、高齢化率は 42.3%で、本市より 10 ポイントも高い。しかし、介護を必要とする人が少ないのだそうだ。その理由は職員も正確にはわからないが、体をよく動かす環境にあるからではないかとのことだった。もともと地域の絆が強ければ、強固な防災組織はつくりやすく、またそれがさらに地域の絆を強くする。学校統廃合などで地域の結びつきが弱くなっている本市が、この方法で再構築される可能性はある。その要として防災士を育成し、地域で中心になって活躍してもらおうというのは大いに学ぶべきだと思った。

8 月 18 日 糸魚川市 子ども一貫教育方針

担当 教育委員会 こども教育課

説明者 山本 修 課長

議会議長 倉又 稔 議長

事務局 小竹和雄 局長

横澤 亮 主任

1 資料をもとに説明を受けた後に質疑を行った。

1) 一貫教育方針導入の経過

0 歳から 18 歳までの子供たちを校舎一体型、中高一貫教育校ではなく、0 歳から 18 歳まで一貫した教育方針で、市民総ぐるみで子育て行う方針のことを言う。

この方針に基づいて、子育て、教育に関する行政窓口を一本化した。教育委員会に子供課を新設した。（保育、幼稚園などもこの課に入れた）。

2) 成果

① 中学校区で目指す子供像について協議し、校種を超えて研修を実施している。

② 早寝・早起き・おいしい朝ごはん運動が定着している。

平成 27 年度 全国学力学習状況調査では

	全国	糸魚川市
小学校	95.6	97.2
中学校	93.5	96.6

③ 学校生活を楽しく送っている子供が多い

	全国	糸魚川市
小学校	87.0	92.4

- | | | |
|-------------------|-------|-------|
| 中学校 | 82.1 | 87.0 |
| ④ 郷土を愛する気持ちが育っている | 全国 | 糸魚川市 |
| 小学校 | 66.9 | 90.1 |
| 中学校 | 44.8 | 56.2 |
| ⑤ 市民アンケートから | | |
| 故郷として愛着を感じる | 中学3年生 | 80.3% |

3) 課題

- ① 基礎学力の定着をめざして 学校医と家庭の連携
家庭学習1時間以上の割合

	全国	糸魚川市
小学校	62.7	74.5
中学校	69.0	55.3

中学生の家庭学習が定着していない。

- ② 不登校児は横ばいだが、いじめは増加傾向である。
③ 高校との連携ができていない。

2 感想

- ① 保育は厚労省、学校は文科省と予算の出るところが違い混乱はあったと言っていたが、それは克服できたと話されていた。

幼少期、少年期の子供の成長には、早寝早起き、朝食などは欠かすことができない要素だが、そこに目を付けて提案された市長の政策は優れていると思った。

- ② 連携することによって、子供も一貫して見れるし、行政の政策も一貫して判断できるメリットがある。

- ③ ①と②を詳しく分析するには、時間が足りなかった。じっくり見ないとすべては判断できないことが多い。

しかし、早め早起き朝食をとることが運動化されていることはとても共感できる。

- ④ 一方で、朝食や食事をきちっと子供に与えられない家庭が、親の仕事や、親に起因して早寝早起きができていない、あるいはさせていない家庭が多くなっていないだろうか。これらを考え対策を取っていくのは政治の責任であるとも考えました。

- ⑤ 教育長が課題として挙げられた、中学生になってからの学習時間が少ないことや、いじめなどは独自の問題があって、対策も別のところにあるように思いました。

- ⑥ 市庁舎は新築のきれいな立派な建物でした。玄関の横には「熊本地震への義援金」を訴える短冊も掲載し、いただいていたいました。本当にうれしいことで驚いた。

進んだところは学びあい共に発展できればと考えました。